

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人 淡島学園 木内鳩の家幼稚園
園長 多賀真弓

1. 教育方針

友だちと関わる楽しさや自分自身で目標を見つけ、やりとげていくたくましさ育てる

2. 教育目標

年少

- ・喜んで登園し、保育者に親しみ、友達と関わって楽しく遊ぶ。
- ・自分の思っていることを伝えられるようにする。

年中

- ・園生活の中で自分なりの力を発揮して、色々なことに一生懸命取り組む。
- ・喜んで登園し色々な遊びや活動に取り組む。
- ・全身を動かして遊ぶ楽しさを味わい、保育者や友達との関りを深める。

年長

- ・園生活を楽しみ色々な活動や遊びに意欲的・創造的に取り組む。
- ・人との関わりの中で社会生活における必要な習慣や態度を身に付ける。
- ・物事に積極的に取り組み、最後まで頑張り通す。
- ・生活の中で言葉を使って表現する意欲や態度を育て、伝え合う喜びを味わう。

3. 令和5年度の木内鳩の家幼稚園の評価項目

項目	評価	取り組み
1 コロナ禍における幼稚園生活を保障する	A	行事の充実（運動会・お泊り会など）。脚力を鍛え、体力をつける。適切な衛生習慣を身に付ける。
2 畑・栽培・自然のかかわりを深める	A	年長/虫探し・畑の夏野菜・山盛り 年中/芋栽培・ヒヤシンス水栽培 年少/プランター野菜の栽培・どんぐり拾い
3 飼育・動物とのふれあいを大切にする	A	・園児が日常的に触れ合える環境を大切に、うさぎ2匹、モルモット4匹、亀5匹の飼育当番を行う。 ・蝶、カブトムシなど昆虫やザリガニなどクラスで飼育して、幼虫の羽化や産卵など継続的に観察し、生命に触れる。 ・年長は遠足（上野動物園）に向けて動物について学んだ。

4	保育研修等による保育の質の向上	A	同僚性を高め、保育内容と子どもの育ちについて話し合う。教育研究大会・ポスター発表・他園との交流会など外部研修への参加。安全・保健衛生・災害・防犯などの安全研修とリスキママネジメントの実施。
5	幼児に対する理解を深める	A	保育参観、個人面談、子育て座談会、講演会を通して、幼児理解の機会を持つ。誕生会給食を再開し、幼児食を知る機会にする。
6	職員の処遇改善	A	職員室や生活環境を整える。ICTを活用するなど、業務の軽減化を進める。
7	園舎の改修と増築	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画のスムーズな進行に努める。 ・工程について保護者に説明し、安全な保育運営をしていく。 ・施設整備を整え、子ども主体の保育実践の場となる園舎を完成させる。
8	こども園に向けてのスムーズな移行	A	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度よりこども園に移行するにあたり、これまでの保育理念を大切に地域の子育て家庭の支援を充実させる。 ・保育時間、保育料など具体的に保護者説明をおこなっていく。

4. 総合的な評価

評価	理由
A	<p>約2年間にわたり、園舎・園庭の増改築工事が大きな事故がなく終了した。園、工事関係者、そして保護者とのコミュニケーションが十分に行われたためだったと思う。また工事によって制限されるような環境下ではあったが、園外での活動などを積極的に取り入れた保育計画が十分なされた。</p> <p>約4年のコロナ禍での日常生活の制限が無くなり、これまでできなかった活動や行事を再開するため、ただ再開するのではなく、現状にあった内容を再度検討して行った。</p> <p>今年度も、自然と生き物に係わる活動を行ってきた。</p> <p>園庭では花や野菜を育て、園外では日常の散歩を通じて周辺の植物の季節の変化、芋ほり、山登りなどを行った。</p> <p>生き物は、園で飼育している動物たちの世話を当番制で行い、園庭や園外の虫の観察を行い、生命について学んだ。年長については、上野動物園への遠足に向けて、自分たちで動物について学び、当日見たい動物たちを選び、見学コースを考え、造形活動を行い年中、年少に動物園を楽しんでもらった。</p> <p>昨年度から引き続き、学びの場を保護者、職員に提供を行った。外部講師の講演</p>

	会や、資料提供などを行い、幼児の理解を深めた。 質の高い教育を目指し、職員研修も意欲的に行った。積極的に外部の研修会を受 講して、それを保育に活かすように促していった。 令和6年度からスタートすることも園に向けて在園児向けの説明会を数回いい、 理解深める場を作ってきた。
--	---

評価 (A 十分に成果があった B 成果があった C 少し成果があった D 成果がなかった)

項目	各委員の評価				
	1	2	3	4	5
1	園生活を保障する	A	A	A	A
2	畑・栽培・自然との関わりを深める	A	A	A	A
3	飼育・動物とのふれあいを大切にする	A	A	A	A
4	保育研究等による保育の質の向上	A	A	A	A
5	幼児に対する理解を深める	A	A	A	A
6	職員への処遇改善	A	A	A	A
7	園舎の改修と増築	A	A	A	A
8	子ども園への移行	A	A	A	A

卒園児の保護・養育

行事も多岐に渡り、職員の方々の入念な準備が感じられるところも多かった。園外行事期間中は課外保育（園外保育）も充実しており、自然へのふれあいの機会、新たな体験の機会も多く設けて下さっていたように感じている。普段の保育から子どもたちのたのびを想った保育内容が感じられ、また、園外環境への配慮もあがり、又、感謝してお礼を言っています。

本年度は、コロナ禍に中止に計画がしつかかりたてられており、日頃の子どもの様子でもおまじかった。参加できなかった方も、簡単なお便りのやり取りで、報告や共有ができています。園舎の改修・増築、そして子ども園への移行と、様々な変化がみられる中で、保育関係の方々の理解を深めるべく、ICTを活用するなど、業務の軽減化を進める。

今年度は、今年度の保育理念を大切にし、新しい保育内容が感じられ、また、園外環境への配慮もあがり、又、感謝してお礼を言っています。また、園外行事期間中は課外保育（園外保育）も充実しており、自然へのふれあいの機会、新たな体験の機会も多く設けて下さっていたように感じている。

今年度は、今年度の保育理念を大切にし、新しい保育内容が感じられ、また、園外環境への配慮もあがり、又、感謝してお礼を言っています。また、園外行事期間中は課外保育（園外保育）も充実しており、自然へのふれあいの機会、新たな体験の機会も多く設けて下さっていたように感じている。

今年度は、今年度の保育理念を大切にし、新しい保育内容が感じられ、また、園外環境への配慮もあがり、又、感謝してお礼を言っています。また、園外行事期間中は課外保育（園外保育）も充実しており、自然へのふれあいの機会、新たな体験の機会も多く設けて下さっていたように感じている。

学校評価に関する資料

1. コロナ禍における幼稚園生活を保障する

今年度初めより、マスクなしでの保育を開始。パーティションも外しての給食となった。手洗い時のペーパータオルを徐々に減らし、各自のタオルを持参し使用するように変更した。

引き続き、食事前の手指消毒を行い、体調不良等での登園は避けていただく等、感染対策に努めた。

行事の充実に関しては、お泊り保育は通常通り開催し、運動会も午後まで行うこととした。年長の日和田山も予定通り行った(ただし、天候不良のため日程が変更となった。)。芋ほり遠足は、貸し切りバスでの移動ではなく、公共交通機関を利用して移動を行った。

2. 畑・栽培・自然とのかかわりを深める実施内容

園庭、屋上を利用して野菜や花を園児たちが育てた。年長は食べられる野菜(茄子、ピーマン等)は、収穫した後子どもたちが中心となって先生の指導の下調理を行い、給食時に食べるという食育を行った。園外保育で訪れた公園で虫を見つけたり、咲いている植物等の観察を行った。

年中では秋の芋掘り遠足に向けて、自分たちも屋上で芋を育て、成長の観察を行

い、収穫し、調理を行い食べて、最後に実際に広い畑に行って、農家の方の育てた芋を掘り、大きさや量にびっくりをし、それを自宅に持って帰って食べるほかに、他の園児たちにふかし芋にしてふるまうことを行った。

年少では拾ってきたドングリを使って、制作活動を行った。

育てることを通じて、食べ物の大切さ、楽しさ、自然について学ぶことができるようになった。

3. 飼育・動物とのふれあいを大切にする

亀、ハムスター、ウサギを飼育している。すべての動物のお世話は園児が当番制で行っており、日々生き物の変化を観察し、命について学ぶ機会を設けている。また、昆虫等観察も行っており、園外で出かけた公園、または園庭等で観察を行っている。

年長は上野動物園遠足に向けて、動物について学び、動物園で見学したい動物を選び調べた。また造形活動も行い、年中、年少に披露した。

4. 保育研修等による保育の質の向上

充実した幼児教育の提供には、職員1人1人のスキルアップが重要となる。またスキルアップをすることによって、さらなる向上心が芽生えて、それが良い循環となつて、子どもたちに恩恵が注がれるようになる。このため、積極的に研修等を行い、特に外での研修に関してはできるだけ参加できるように情報提供を行っている。

- ・日本小児保健協会に園で加入し、学術集会やセミナーなどを受講させる

第70回日本小児保健協会学術集会（川崎）6月16-18日

神奈川県小児保健協会「2023年度小児保健支援者研修会」12月11日

第8回多職種のための発達障害の研修会2月25日

市民公開講座「当事者中心で考える発達障害支援」3月20日

- ・BLS（1次救命処置）研修会（アメリカ心臓協会（AHA）認定研修会）7月3日

・第1回東京都私立幼稚園新規採用教員研修会5月17日

・まらぎら0年生応援プロジェクト研修会4歳児担任研修会5月31日

- ・第23回全日私幼連東京地区教育研究大会「新しい時代をのびやかに生きる」7月

25-26日

・第1回新規採用教員夏期研修会7月31日-8月1日

- ・中堅教諭研修会「幼児教育の質を高めるために」8月9-10日

・4歳児担任研修会「講義と実技『造形遊び』」9月5日

・ダイアローグジャパンソサエティ 「囚われのキミは」9月9日

・第44回母子健康協会シンポジウム 「発達や行動が気になる子どもへの園での対

応」1月31日

・園内研修「保育の質向上と組織マネジメント」～一人一人の特性を発揮し組織で

叶える保育の質～ 3月25日

他

5. 幼児に対する理解を深める

小児科専門医、産婦人科専門医等による様々な分野の幼児に関する理解を深める講演・講習会を行った。

演・講習会を行った。

保護者、職員、地域の人に向けた専門家による講演会を開催。今年度は、下記の内容を行った。

※ 小児科医による「子どもの病気とケガ」についての講演を企画していたが、能登半島地震の支援活動の影響により、担当の医師が都合がつかず、今年度は断念した。

「幼稚園からの性教育」10月4日

「AED講習会」11月13日

「小児科医は母親のかかりつけ医です」WEB講演 11月20日

「ストレスに負けないコミュニケーションスキルとセルフケア」2月28日

6. 職員の処遇改善

新職員室になり、効率の良い配置などを考え生活環境を整えた。また、業務の見直しを行う努力を常日頃している。また、来年度賃金改正を行う予定である。

7. 園舎の改修と増築

昨年から引き続き園舎の工事が8月に終了した。期間中、事故なく終えられたのは、工事関係者の徹底した安全管理と、園との綿密な情報交換、そして各家庭のご理解があったことだったと思われる。

新しいトイレ、保育室、園庭等生活環境も整い、今後これらを生かして子ども主体の保育実践の場を作っていきたい。

8. こども園に向けてのスムーズな移行

令和6年度よりこども園に移行するにあたり、北区と移行の準備を進めている。

在園児（年少、年中）向けのこども園への移行の説明会を2回開催した。また令

和6年度の入園説明会でも説明を行った。両会とも北区職員の方にも参加いただ

き、行政として説明をおこなった。

幼稚園からこども園に移行する際に、在園児でも認定の再手続きが必要であり、

現在板橋区はその手続きを行っており、その他の区も3月までに手続きを行う予

定である。